

安浪小夜子先生への献辞

総合管理学部長 進藤三雄

安浪小夜子先生は、2010年(平成22)4月に本学に助教授として着任され、以後9年間にわたり総合管理学部の発展のためにご尽力されて来られました。2019年3月31日付けで定年退職されるにあたり、先生のこれまでのご貢献に対して感謝の意を表し、記念号を捧げます。

先生は、潮谷県政時代に、熊本県看護協会が熊本県立大学に看護学部をという請願のプロジェクト会議に委員として参加されました。当時の県政や本学の状況、他大学の看護学部新設などの事情から看護学部の設置には至らなかったものの、2006年には本学アドミニストレーション研究科に看護管理コースが設置されました。この委員経験が動機となり、先生は2008年に本研究科博士前期課程に入学され、そこで実践を理論化されることの重要性を肌で感じるとともに、さらに専門性を追及したいとの希望から博士後期課程にも進まれました。先生はもともと看護基礎教育よりも卒後教育にご関心が高く、また看護現場の質を向上させるためには看護管理者の質向上が重要であるとの強い信念をお持ちでした。そんな中、先生は2010年4月より熊本県立大学総合管理学部に赴任され、本学の看護管理教育に献身的にご尽力いただくと共に、今日まで多くの有能な卒業生を社会に送り出してこられました。

赴任当時を振り返る中で、先生はそれまでの専修学校や大学での教育経験が看護系であったため、総合管理学部という学部は畑違いではないのか、学生にどのような貢献ができるのかと内心不安を感じられていたそうです。しかし、所属先が地域福祉ネットワークコースという医療と近接領域だったこともあり、これまでのご自身の知識や経験を基に学生と共に更なるご研鑽を重ねられました。また、医療の世界だけからでなく、地域福祉という立ち位置から医療を俯瞰しながら、これまでのご自身の経験を見つめる良い機会になったと振り返っておられます。学生にとっても、そのような幅広い視野から医療福祉を学ぶ絶好の機会を提供していただいたことは、この上も無い幸運なことでした。

医療福祉の世界は知識だけではイメージできない学生が多いことから、先生はゼミ活動にフィールドワークを積極的に取り入れ、理論と実践の統合に努められました。さらに研究という視点での学びを深めるために、熊本市教育委員会の支援を受けて「家庭教育力推進のための地域力向上」というテーマで2年間「学生G P研究」にも取り組まれました。この学生G P研究においても先生は学生と共に積極的に地域活動に取り組み、大きな成果を収められました。

学部では「現代家族論」という科目を担当していただき、これまでの看護職及び看護教員としてのご経験を大いに活かしていただきました。そこでは家族という当たり前に空気のように存在

する現象とそこに発生する諸問題を、家族社会学を土台としつつ、家族看護という視点を加えながら、学生と共に考えるといった深い学びの場を実現していただきました。

先生には学部教育だけでなく、大学院教育にも大きくご尽力いただきました。先生が本研究科のご出身であるということもあり、初年度から大学院を担当していただき、修士論文完成への支援など、学生と一緒に研究活動を推し進められました。先生の研究分野でもある「専門職連携・協働」「経験学習」について、大学院生とのディスカッションを通して過ごされた教育実践は、院生にとって大変有意義なものだったものと確信しております。

教育・研究以外では大学運営にも大きく貢献していただきました。学部及び大学院では教務委員や人権委員、ハラスメント委員等をご担当されました。中でもハラスメント委員は、人間の尊厳という課題を突き付けられる大変なお仕事で、学生からの人権にかかわる様々な相談に対して、常に温かく耳を傾け、親身になって対応されている姿がとても印象的でした。

地域貢献に関しても、大学教員、看護職のお立場から多くの医療審議会、子育て支援、障がい者支援、認知症家族の会、地域包括支援センター委員などの地域福祉活動に参加されたり、看護管理や看護現任教員、看護基礎教育などの講演、学会査読委員及び評議員・監事など、専門性をいかした活動にも取り組まれました。また、大学のCPD活動として、「認定看護管理者教育課程サードレベル」を責任者として2014年から毎年開催していただきました。これは日本看護協会が認定している資格で、受講後認定試験に合格すれば看護のトップマネージャーである認定看護管理者としての資格が取得できるもので、本学部の教員の強みを活かした教育は大きな社会的役割を担っていると言えます。サードレベルの修了生の中には、さらに研究を深めたいと希望する学生も多く、先生は大学院への進学を推奨するなど、毎年大学院生の確保に大きく貢献されてきました。このような大学院課程は九州でも2校しかないため人気も高く、先生には本学大学院の持続的基盤を構築していただいたと言っても過言ではないでしょう。

ご退職後のご予定を伺ったところ、まずはゆっくり休養し、その後はボランティア活動や趣味を中心に過ごしたいとのことでした。また、これまで中断していた茶道や楽器演奏を再開し、晴耕雨読を満喫したいそうです。

最後になりますが、本学部を代表して安浪先生に感謝の意を表するとともに、ご退職後のご健勝と、さらなるご活躍を切に祈念する次第です。安浪先生、長い間本当にお世話になりました。そして、お疲れ様でした。